

3月 給食だより



令和6年3月
萩野台共同調理場

給食から、どんなことを学びましたか？



卒業や進級など節目を迎える時期となりました。給食は、「心と体の栄養になるように」「おいしく安心して食べられるように」など、たくさんの思いを込めて作っています。皆さんは、給食を食べながら、どんなことを感じ、学んだでしょうか？

今年度の給食もあと少しで終わりです。この1年を振り返るとともに、残りの日々も給食をしっかり食べて、元気に学校生活を送ってほしいと思います。



「食べること」は・・・

私たちにとって『食べること』はいろいろな意味を持ち、日々の生活において大切な要素です。『食べること』の大切さを正しく理解して、充実した食生活を送りましょう！

食べることは「生きる」こと

人が生命を維持していくためには、食えることが不可欠であり、食べなければ生きていくことができません。食えることは生きることです。

食べることは「はぐくむ」こと

食を通じて、人とのコミュニケーションを図ることで、安心感、信頼感が生まれ、円滑な人間関係を築くことができるようになります。

食べることは「学ぶ」こと

食えることから、季節や文化、社会や経済、日本や世界など、様々なことを学ぶことができます。



食べることは「楽しむ」こと

私たち人間は、ただ生きるためだけに食えるのではなく、料理を作ることや、家族や仲間との時間や空間によって、食えることを楽しむことができます。

給食センターでは、食品や調理過程の安全に細心の注意を払い、おいしい給食を毎日提供できるように努めてきました。「今日もおいしかったです」「ごちそうさまでした」の声や、空になって返ってくる食缶を見る喜びがスタッフの大きな励みになっています。今年度も給食を通してたくさんのうれしい笑顔を見ることができました。ありがとうございました。

